

社 会とのかかわり

社外とのコミュニケーション

日本化薬は、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションのための活動を鋭意行っております。情報公開・情報提供の方法としては、この「環境安全／サステナビリティ・レポート」の他に、ウェブサイトやアニュアルレポート、株主向け広報誌を発行しており

ます。これらの媒体を通じて、当社や当社グループの透明性を一段と向上させ、皆様に理解していただき、さらに、皆様との相互理解を一層深めるためのツールとして役立てることができればと考えております。



医薬品の安全への取り組み

医薬品は、新規物質の創製(基礎研究)後、動物等での有効性・安全性研究(非臨床試験)により医薬品としてのリスク・ベネフィット評価をし、最終的には臨床試験でヒトでの有効性・安全性を確認して、国の審査を受け承認後発売されます。この長い開発段階を通して種々の有効性・安全性に関する情報に基づき、この時点での適正な使用方法が設定されます。

しかしながら、開発段階で得られる情報は限定されたものであるため、販売後に多くの患者さんに使用された結果、開発段階では発見されなかった薬の副作用や有用

性が発見される可能性があります。そこで、製造販売後の安全管理情報活動及び製造販売後調査・試験活動により、医薬品のより適正な使用法に資するため、GVP(製造販売後の医薬品の安全管理業務基準)及びGPSP(製造販売後の医薬品の調査及び臨床試験業務基準)に則り、副作用に伴う重大な健康被害を防止するために、収集した副作用情報を評価・分析して、医薬品をより適正に使用する方策を策定し、迅速に医療関係者に提供しています。

LRI

LRIとはLong-range Research Initiative(長期自主研究)の略で、国際化学工業協会協議会が行っている自主活動の一つです。人の健康や環境に及ぼす化学物質の影響に関する研究を長期的に支援しています。日本では、日本化学工業協会が中心となり、内分泌かく乱

物質(環境ホルモン)、神経毒性、化学発がん、過敏症(免疫毒性およびアレルギー)の4分野に焦点をあてて研究を支援しています。

日本化薬は、この活動が開始された1999年から積極的に賛同し、活動のための資金を出資しています。

ピンクリボン活動「乳がんの早期発見・早期診断・早期治療推進のために」

全世界で乳がん罹患される方は年々増加していますが、その死亡率は欧米では減少傾向にあるのに対し、日本では増加しています。死亡率を下げるためには、的確な診断・治療が早期に行なわれることが重要です。

日本化薬は、医療の質の向上と当社製品の適正使用の普及に関する情報提供を目的として、医療従事者を対象とした画像診断(マンモグラフィ、超音波等)や治療に関する勉強会を各地で支援しております。

しかしそれだけでは十分とは言えず、これからは一般の方々にも乳がんについての正しい理解をしていただくことが大切と考え、毎年10月に世界的におこなわれている

ピンクリボン活動(乳がん啓発活動)に協力しております。

また2006年、乳がん情報サイト「乳がんinfoナビ」を協賛し、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の重要

性を広く訴えていくと共に、乳がんで亡くなる方を一人でも少なくさせたいと願っています。(ホームページ:
http://www.nyugan-infonavi.jp/n_navi/)



難病介護者のための滞在施設「あすなろの家」

日本化薬では、小児がんをはじめとする難病や骨髄移植を受ける小児に付き添う介護者の滞在施設として「あすなろの家」を埼玉県さいたま市に建設し、1998年12月にオープンしました。

この施設には10室が用意され、ご利用者のプライバ

シーが守られるよう設計されています。その一方で介護者が交流を図れるよう共同キッチン、食堂、談話コーナーや子供達のためのプレイルームなどを設け、精神的な負担を軽減できるよう工夫しています。(連絡先電話番号:048-658-5861)



玄関



部屋



プレイルーム



食堂



調理場

間伐材の利用

日本化薬は、環境NPO「オフィス町内会」のすすめる「森を元気にする間伐促進活動」に賛同して、印刷紙の一

部に森の町内会の「間伐に寄与した紙」を使用しています。(参考ホームページ:
<http://www.mori-cho.org/>)